

講義計画書

(シラバス)

2023 年度

第 30 期生

【3 年次】

宮本看護専門学校

学籍番号	氏名
------	----

専門基礎分野／救急医学（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：救命救急に必要な基礎的知識と患者の援助を習得する

授業内容	疾病の成り立ち と回復の促進	単元	救急医学	講師	砂長 久枝 13 (看護師臨床経験有) 鎮目 祐子 2	単位数	1
						時間数	15
学習目標 1. 救急医療の初期治療と救急医学の基礎的知識を学ぶ 2. 救急時に必要な救急蘇生法に関する知識と一次救命処置の技術を学ぶ							
必携テキスト 医学書院 救急看護学 医学書院 臨床看護総論 インターメディカ 写真でわかる急変時の看護 アドバンス改定第2版				準備教材 A E D, 救急モデル人形(成人・ベビー), 挿管人形			
評価方法 客観テスト90点 出席・態度10点				備考			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1・2	4/17 1限 2限	1. 救急看護とは 2. 救急医療体制 3. 救急患者の特徴 4. 救急患者家族の特徴	砂長	講義 演習
3	4/18 1限	5. 主要病態に対する救急処置と看護 心肺停止状態への対応	砂長	講義 演習
4・5	4/24 1限 2限	一次救命処置(成人・乳児) 二次救命処置 6. まとめ		演習
6	4/26 1限			
7	4/25 1限	集中治療を受ける患者の看護	鎮目	講義
8	5/8 2限	テスト	砂長	

専門基礎分野／保健医療論

目的：医学と看護は共働しい、その責任を果している。広い視野に立ち、医療上の問題について常に思考する態度を習得する

授業内容	健康支援と 社会保障制度	単元	保健医療論	講師	宮本二郎(医師)15	単位数	1
						時間数	15
学習目標 1. 医療の発達とその体系を学ぶ 2. 医療とは何かを理解し、現代社会の中で看護はどのような役割を果していかなければならないかを学ぶ							
必携テキスト 総合医療論 医学書院				準備教材			
評価方法 客観テスト 100点				備考			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1・2	4/20	1. 医療観の変遷 1限) わが国の場合 2限 2. 私たちの生活と医療 1) 日本の保健医療のしくみ(医師法・医療法を含む) 2) 診察と診断 3) 患者の要求とインフォームドコンセント	宮本	講義
3・4	4/27	3. 疾病の一次予防と生活習慣病の考え方 1限 1) 生活習慣病と健康教育 2限 4. 医療不信から「賢い患者」へ 1) インフォームドコンセントと医療情報の開示 2) 増え続ける医療訴訟		
5・6	6/29	5. 医における倫理 1限 6. 医療の管理と医療の評価 2限 1) 医療と経済		
7	7/6	2) 医療機能評価		
		1限 7. 健康概念の質的变化と保健・医療の新しい潮流		
8	7/13	テスト		
		1限		

専門基礎分野／公衆衛生学 I

目的：人々の健康な生活を守るための、公衆衛生活動の基礎を知り、今後の公衆衛生の方向性を考える

授業内容	健康支援と 社会保障制度	単元	公衆衛生の 基礎と展望	講師	堀 紀子 15	単位数	1
						時間数	15
学習目標 1. 公衆衛生の理念・技術について学ぶ 2. 生活者のための健康支援の動向を理解する 3. 健康支援の社会保障制度について学ぶ 4. 公衆衛生と国際化のかかわりについて考察する							
必携テキスト 系統看護学講座 専門基礎8 公衆衛生学 国民衛生の動向				準備教材 PC・プロジェクター			
評価方法・配点 客観テスト（宮本・堀 100点）				備考			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1・2	4/14 3限 4限	1. 公衆衛生の基礎 1) 公衆衛生の理念 ① 公衆衛生における医療の役割 ② 権利とインフォームドコンセント 2) 医療の動向と医療保障 ① 医療の動向 ② 医療保障制度と医療経済	堀	講義
3・4	4/21 2限 3限	2. 公衆衛生と国際化 1) 公衆衛生と国際化 2) 国際協力		
5	4限	3) 情報公開と生命倫理 3. 公衆衛生を学ぶにあたって 4. 公衆衛生のエッセンス 1) プライマリーヘルスケア 2) ヘルスプリモーション		
6・7	6/16 3限 4限	5. 公衆衛生の活動対象 6. 公衆衛生のしくみ 7. 集団の健康をとらえるための手法		
8	7/10 1限	テスト		

専門基礎分野／公衆衛生学 II

目的：健康支援のための 地域におけるさまざまな施策と保健活動を学ぶ

授業内容	健康支援と 社会保障制度	単元	公衆衛生と 健康支援	講師	堀 紀子 15	単位数	1
						時間数	15
学習目標							
1. 人々の健康づくりに果たす、公衆衛生活動について理解する 2. 母子保健、学校保健、成人・老年保健に対する地域の保健活動について理解する 3. 産業保健、感染症を含む環境保健について理解する							
必携テキスト				準備教材			
系統看護学講座 専門基礎8 公衆衛生学 国民衛生の動向				PC・プロジェクター			
評価方法・配点				備考			
客観テスト（100点）							

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1・2	6/30 3限 4限	1. 公衆衛生と地域保健 1) 地域保健 ①地域と健康 ②地域保健 ③健康増進法(喫煙・飲酒含む) 2) 母子保健 ①健やか親子21 ②子育てと家族 ③リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ④ジェンダー 3) 学校保健 ①学校保健の理念と目的 ②学校保健の仕組みと制度 ③学校保健の健康課題 ④養護教諭と保健室の機能 4) 成人・老年保健 ①成人、老年保健 ②生活機能と保健活動 ③生活習慣病 その成り立ちと予防、さまざまな施策 5) 難病保健 ①難病保健の歴史と現在 ②難病保健システム	堀	講義
3・4 5	7/7 2限 3限 4限	2. 公衆衛生と環境保健 1) 生活環境 ①環境要因とは ②公害からの教訓 ③地球環境問題 ④身の回りの環境問題 ⑤環境保全のために 2) 産業保健 ①労働者を取り巻く環境 ②労働者の健康状態 ③働く人々の健康をまもる活動 - 労働衛生対策の基本 ④産業保健に期待される活動 3) 感染症・危機管理 ①感染症(予防接種法) ②危機管理 ③災害保健		
6・7	7/14 3限 4限			
8	7/18 1限	テスト		

専門基礎分野／関係法規（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：法律や保健医療情勢に関する基礎的な知識と看護職に必要な法規を学ぶ

授業内容	健康支援と 社会保障制度	単元	関係法規	講師	黒田 晴之 8 平野真紀子 7 (看護師臨床経験有)	単位数	1
						時間数	15
学習目標							
1. 看護専門職業人としての責任と役割を理解する 2. 看護職に必要な法令を理解する							
必携テキスト				準備教材			
看護関係法令 医学書院 国民衛生の動向				PC・プロジェクター			
評価方法				備考			
客観テスト100点							

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	4/7 4限	1. 法規の概念 2. 看護法 1) 保健師助産師看護師法 2) 看護師等の人材確保の促進に関する法律	平野	講義等
2	4/10 2限	3. 医事法 1) 医師法・医療法 2) 医療を支える法律 4. 保健衛生法 1) 地域保健法 2) 精神保健及び精神障害者福祉法に関する法律 3) 母子保健法 4) 学校保険安全法 5) がん対策基本法		
3	4/11 2限	5. 感染症に関する法律 1) 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 2) 予防接種法		
4	6/16 1限	6. 社会保険法 1) 費用保障 2) 年金 3) 手当	黒田	講義
5	7/7 1限	7. 福祉法 1) 共通的福祉 2) 児童分野 3) 高齢分野 4) 障害分野		
6	7/14 1限	9. 労働法と社会基盤整備 1) 労働法 2) 社会基盤整備等		
7	2限	10. 環境法		
8	7/19 1限	テスト	平野	

統合分野／在宅看護論（方法Ⅱ）（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：在宅での看護ケアを必要としている療養者や家族に可能な限り最良で最善のケアを提供するための看護過程の展開について学ぶ

授業科目	在宅看護論	単元	方法Ⅱ (在宅看護過程)	講師	池田洋子 15 (看護師臨床経験有)	単位数	1
						時間数	15
学習目標 1. 在宅で療養生活を送る対象を理解できる 2. 病態と共に、療養生活に視点をとおいた情報収集の必要性を理解できる 3. 在宅療養における看護過程の特徴を考慮した問題の抽出ができる 4. 対象と家族に必要な個別的、具体的、社会資源を活用した看護計画が立案できる 5. 行った看護を評価する視点について理解できる							
必携テキスト メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア 在宅看護論②在宅療養を支える技術				準備教材			
評価方法 態度（学習の取り組み・姿勢評価）：5点 課題：40点 客観テスト：55点				備考 3年前期 4月～5月			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	4/10 1限	1. 在宅看護の概念 1) 在宅看護を展開するための基本理念 2. 在宅療養を支える訪問看護 1) 訪問看護サービスの展開 ①訪問看護における看護過程の特徴 3. 訪問看護技術 1) 在宅療養における看護過程の展開技術 ①在宅療養における看護過程の特徴	池田	講義
2	4/11 3限	②情報収集の項目とアセスメントのポイント ③在宅療養における看護過程の展開のポイント ④訪問看護過程の実際	池田	講義
3	4/11 4限	4. 事例をもとにした在宅ケアを支える制度と社会資源の活用 5. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 1) 在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント	池田	講義
4	4/12 1・2 限	5. 事例展開 ・訪問事例をもとにグループワーク・個人ワークを行う 発表	池田	GW 個人ワーク
5				
6				
7	4/25 3・4 限			
8	5/8 1限	テスト	池田	

統合分野／在宅看護論（方法Ⅲ）（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：地域で生活する人々がより健康的に暮らすための保健・医療・福祉の各機関・職種が互いに連携・調整・協働している体制を理解する

授業科目	在宅看護論	単元	方法Ⅲ (地域看護)	講師	篠塚由美子 2 臼田 俊子 6 阪口 志帆 2	平山 松枝 2 池田 洋子 18 (看護師臨床経験有)	単位数	1
							時間数	30
学習目標								
1. 地域における様々な保健・医療・福祉活動とそれに伴う制度を理解する 2. 保健医療福祉体制において、それぞれの場が果たす役割、機能を理解する 3. 地域看護における看護師の役割を理解する 4. 在宅療養を支える訪問看護の特徴と訪問看護ステーションの役割を理解する 5. 地域における保健・医療・福祉の各職種が、連携・調整・協働し継続看護につなげていることを理解する								
必携テキスト メディカ出版 ナーシング・グラフィカ				準備教材				
在宅看護論①地域療養を支えるケア 在宅看護論②在宅療養を支える技術								
評価方法 （学習の取り組み・姿勢評価）：5点				備考				
課題（池田）：25点 筆記試験：70点								

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	6/15	1. 地域看護とは	池田	講義 GW
2	3.4限 6/16	2. 地域看護活動の場と対象者		
3	2限	1) 地域、学域、職域、医療、福祉の場		
4	6/28 1限	2) 連携と協働、継続看護		
5	2限 (1h)	3) 地域看護活動の担い手 ① 保健所：保健所の目的、役割、業務内容 ② 市町村保健センター：活動の目的、役割、事業内容		
5	6/28 2限 (1h)	3. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護	池田	講義 GW
6	7/6 3限	1) 地域包括ケアシステム ①地域包括ケアシステムとは ②生活の場に応じた看護とサービス提供機関 ③地域包括支援センター 2) 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 3) 地域包括ケアと地域ケア会議		
7	6/29 3限	3. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 2) 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 地域連携室の役割と機能	篠塚	講義
8	7/19 2限	3. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 2) 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 訪問診療の役割、訪問看護との連携、多職種・多機関との連携	阪口	講義
9	7/11 3限	3. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 2) 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 訪問看護ステーションと多機関・多職種との連携	平山	講義
10	7/5	4. 在宅療養を支える訪問看護 1) 訪問看護の特徴 2) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション 3) 訪問リハビリ 4) 訪問看護の記録 演習：家庭訪問（事例を基に療養者を訪問する）	臼田	講義
11	1.2限 7/12			
12	1限			演習
13	7/11 4限	5. 3. 地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 1) 療養の場の移行に伴う看護 ①医療機関における入退院時の連携 ②医療施設や介護施設との連携 ③退院時の合同カンファレンス 演習：退院支援カンファレンス 6. 在宅看護の動向と今後の発展	池田	講義
14	7/12			GW
15	3限			
	4限 (1h)			演習
1h	7/21	テスト	池田	

統合分野／看護管理（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：看護サービスの組織化について理解し、チーム医療とリーダーシップの重要性を学ぶとともに、看護の専門性と倫理を理解し、看護師としての認識を深める

授業内容	看護の統合と実践	単元	看護管理	講師	猪瀬 明美 6	単位数	1
					藤原 里美 6		
					平野真紀子 3 (看護師臨床経験有)	時間数	15
学習目標 1. 看護管理の原則と基礎を学ぶ 2. 病院における看護管理を理解する 3. 看護活動を取り巻く現状を理解する							
必携テキスト 医学書院 看護管理				準備教材 PC・プロジェクター			
評価方法 客観テスト（100点）				備考			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1	6/29 4限	1. 看護とマネジメント	猪瀬	講義
2	7/6 4限	2. 看護ケアのマネジメント 安全管理 チーム医療		
3	7/13 4限	3. 看護職のキャリアマネジメント		
4	6/30 2限	4. 看護サービスのマネジメント ① 情報管理 人材マネジメント	藤原	講義
5	7/6 2限			
6	7/12 2限			
7	4/11 1限	3. 看護活動を取りまく法律・制度	平野	講義
8	7/18	テスト 45分	平野	

統合分野／看護研究の実際（実務経験のある教員等による授業科目）

目的：臨床で生じる問題を研究的に確かめ、また、解決するための基礎的能力を養う

授業内容	看護の統合と実践	単元	看護研究の実際	講師	砂長 久枝 30 (看護師臨床経験有)	単位数	1
						時間数	30
学習目標 1、看護研究とは何か、看護研究の目的を理解できる。 2、看護研究のプロセスを知る。 3、看護研究のリサーチクエスチョンを設定できる。 4、看護研究のための文献検索について理解できる。							
必携テキスト				準備教材			
評価方法 演習評価、発表内容				備考 パソコン準備してください			

回数	実施日	主な学習内容	担当者	授業方法
1・2	4/14	1、看護研究の基礎知識	砂長	講義 演習 (グループワーク) 発表
3・4	1.2 限	1) 看護研究とは		
	4/18	2) 研究方法の種類		
5・6	3.4 限	3) 看護研究のプロセス		
	4/20	2、看護研究のための文献検索		
7	3.4 限	3、研究テーマの絞り込み・研究疑問の明確化		
	4/21			
8・9	1 限			
	4/24			
10・11	3.4 限			
	4/26			
12・13	3.4 限			
	4/27			
14・15	3.4 限	4、発表		